第８回大田市学校のあり方に関する実施計画検討委員会 会議録

日　時	令和２年１１月１２日（木）　１０：００ ～ １２：１０		
場　所	大田市民会館　中ホール		
出席者	委　員：　２１名／２３名　（欠席：吉川　靖委員、田中はるみ委員） 事務局：　船木教育長、川島教育部長、 勝部総務課長、和田学校教育課長、後藤社会教育課長、 藤原まちづくり定住課長、安田子育て支援課長補佐、 森総務課長補佐、寺岡総務管理係長、 石橋派遣社会教育主事（ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾚｺｰﾄﾞ担当）、 岡田学校教育課指導講師（ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾚｺｰﾄﾞ担当）		
傍聴人	７名	報道機関	２社（山陰中央新報、島根日日新聞）
次　第	別紙のとおり		
概　要	以下のとおり		
附　記	本委員会は原則公開		

１．開会（進行：勝部総務課長）
・委員の半数以上の出席を確認後、本委員会の成立を報告
（検討委員会設置要綱第６条第２項による）

２．協議（議長：岸本委員長）
・あいさつ
学校のあり方に関する実施計画　修正案について協議する。
事務局からの説明後に協議したい。

【協議事項】
学校のあり方に関する実施計画　修正案（修正箇所）について、事務局（勝部総務課長）より説明。

協議事項に係る質疑応答

発言者	内　　容
平田委員	大田市では１００人に１人が外国人という現状で、乳幼児から高校生まで３０人ぐらいの外国にルーツがある子どもたちがいる。今後、日系ブラジル人の子どもたちが成長していくことになり、保護者自身が日本語がわからない状況の中で子育てをしていく環境にある。外国にルーツのある子どもたちへの配慮を言葉として加えてもらいたいし、保護者への支援も必要なのでお願いしたい。
川島部長	児童生徒だけでなく保護者との意思疎通において、日本語理解が十分でないご家庭に対して、各学校でいろいろな工夫をして取り組んでいる。 外国人児童生徒への支援のところをふくらませて、ご家庭への支援のことも加えるということでいかがか。
平田委員	外国人児童生徒への支援のところをふくらませるということでよい。
松場委員	以前の検討委員会で発言したが、大田市相談支援ファイルの外国語版の作成を具体的に明記してはどうか。 それぞれの施設だけにとどまるのではなく、子どもの成長とともに次の段階につながるように、そのことがわかるような表記があるとよいと思う。

発言者	内　　容
和田課長	相談支援ファイルはつながっていかないと意味がないので、学校へ働きかけしているが、今後も力を入れていきたいと思う。
岸本委員長	松場委員のご提案は、運用の面と表記の面と二つあると思う。表記については、いかがか。
船木教育長	実施計画に基づいて、今後、事業などの運用をしていくことになるが、実施計画の中に文言を記載してしまうと、そのことに特化してしまうので、実際の運用で対応していきたい。
松場委員	コミュニティスクールになることにより市全体が特色ある教育になることはイメージできる。一方で、特認校が立ち上がった場合、保護者がコミュニティスクール、特認校をそれぞれ特色ある学校ととらえ、ニーズのかぶりが出て、特認校に入学する生徒がいなかったということにならないか心配である。何か工夫を考えているのか。
渡利委員	コミュニティスクール、特認校それぞれの特徴、特色について、どう違うのかということではないか。
松場委員	すべての学校がコミュニティスクールになると、地域、保護者の満足度が上がり、地域にコミュニティスクールがあるのにわざわざ特認校を選ぶのか。
船木教育長	どの学校を特認校にするかは決まっていない。今後の展開によっては、特認校が設置できないかもしれない。コミュニティスクールと特認校を同じように考えてしまうとわかりにくくなる。
松場委員	コミュニティスクールと特認校の違いが伝わっていない。学ぶ機会や動画などわかりやすく説明した資料がないと、設置したものの、それを選ぶ家庭が減ってしまう心配がある。
船木教育長	令和４年度までにすべての小中学校をコミュニティスクール化することとしている。 特認校については不明な点が多々あり、ハードルが高いと思っている。今後、皆様方と協議する中で、実施していければよいと思っている。
平田委員	池田小学校について、地域の方々が署名を出されたが、そのままになっている。 小学校だけしかないので、取り残されるという思いがある。 これまでの検討委員会の中で、コロナ禍において少数でやっていくことも大事だと気づかされた。 署名に対する返事、地域として頑張っていけば特認校としてやっていける可能性があるかどうかをお願いしたい。
川島部長	実施計画案の説明のために各地域に伺ったときに、池田地区の小学校の考え方、再編の考え方について様々なご意見をいただき、地域の方も行動を起こされた。実施計画の最終案については、そういったことも受けながら記述したところである。 将来的に、小学校で但し書きのような児童数の推移が見込まれる場合には、この計画をもとに、地域の方としっかりと話し合いをすることが第一である。池田地区では、地域振興計画を組み当てておられるので、地域をどうするのか、学校を地域の中でどう位置付けるのかを話し合った中で、子どもたちにとって一番よい環境について議論した結果に基づいて地域の方と一緒に取り組んでいかなければならない。その中で特認校についても出てくるかもしれない。
平田委員	話し合いをしながら、どうするのが一番よいかを組み立てていただきたい。
松場委員	用語解説に義務教育学校は記載しないのか。コミュニティスクール、特認校、義務教育学校それぞれがどうなのかわかりにくい。
勝部課長	４ページの（３）の本文に概要を記載している。

発言者	内　　容
松場委員	コミュニティスクールについても、７ページに記載されているが、用語解説の一覧の中でコミュニティスクール、特認校、義務教育学校の違いが読めたほうがよい。用語解説だけを見ていると、特認校イコール義務教育学校とイメージしかねない。
勝部課長	特認校イコール義務教育学校というイメージを持たれるということで、当初は一つの項目であったものを、義務教育学校と特認校それぞれ別の項目で記載した。
岸本委員長	コミュニティスクール、特認校、義務教育学校の３つの記載について、本文に記載しているものもあるので特認校のみ用語解説があるということだが、一方で、コミュニティスクール、義務教育学校も用語解説があったほうがよいという意見もある。他の委員の皆さんはいかがか。
大國委員	義務教育学校と施設一体型義務教育学校も違うのではないか。 誰が見てもわかるように、用語解説に入れてもらいたい。
谷口委員	特認校の説明とコミュニティスクールの仕組みが同じようにとらえられる。 特認校は、大規模校で指定されることはないのか。また、小規模校から小規模校に移ることもあるのか疑問に思っている。
川島部長	本文には記載しているが、用語解説に移したほうが混同しないということであればそうしたい。 すべての小中学校をコミュニティスクールとするが、特認校については、小規模校で児童数が減っていく中で、外からも来てもらえるような学校あるいは受け皿としての地域づくりをしていこうとなったときに、初めて特認校という考えも出てくると思う。 小規模校において、特認校という話と地域もあげてしっかり受けていこうということがあって初めて特認校という形になると思う。
岩谷委員	用語解説に入れてもらいたい。これから実施計画が動き出すときに、できるだけ多くの方に理解してもらいたいからである。教育用語は、教育の現場にいても理解しにくいものがある。余計に、保護者の方や地域の方は理解しがたいことが多いと思う。 広く地域の住民の方のご意見やお考えを入れ、広く住民の方の支えをいただきながら、学校が共に歩むということがコミュニティスクールの原点だと思っている。その中で、特に明確な目標や考え方があって、優れた教育課程を作っているところを特認校にしていきたいと教育委員会は考えているのではないかと解釈している。その辺のところも解説にいれてもらうと明確になると思う。
岸本委員長	用語解説に載せるということでいかがか。
船木教育長	はい。
渡邊委員	コロナ禍で働き方が変わってきて、一極集中ではなく、いろいろな地方で働くチャンスがあるとなると、この実施計画が大田市の大人、子どものものだけではなく、それぞれの自治体が出しているわけで、全国から比較検討されていく。大田市の計画は魅力的なものだという部分がしっかり入り込んでいるのかということは大事な視点だと思う。内向きな実施計画の部分と外からどういうふうに映るのかというところが必要である。中にいると気づきにくい部分がたくさんある。大田市にしかないもの、教育サービスをさらに付加できる余地があれば検討してもらいたい。
岸本委員長	今後、教育委員会では、実施計画に基づいて進められると思うが、今のご意見については踏まえておいてもらいたい。
船木教育長	学校としての魅力を出していき、Ｕターン、Ｉターンしてもらえるようにしていきたい。 教育の関係で人口減少のスピードを緩めていくという思いで計画を作成している。

発言者	内　　容
船木教育長	小学校は何とか維持したいという気持ちであるが、子どものことを考えると、1 人となったときに本当にいいのかということを考えなければならないと思っている。 教育委員会だけではクリアできないものがあるので、地域全体をあげて定住人口対策についても考えていただきたい。 対外的に魅力的なものになるように、この実施計画だけではなくそれぞれの計画等を恐れずにやっていきたい。
松場委員	実施計画ができた後に実行に移すときに、何か組織あるいは会のようなものを作る計画はあるのか。
川島部長	実施計画の完成は今年度末、３月を予定している。その後、来年度に、それぞれの地域、学校を含め、しっかりと説明させていただく。 地域全体で対話を重ねながら学校の将来をどう築いていくのかを最初にお話ししなければならないと思っている。子どもたちにとってよりよい教育環境、学校だけではなく周りの地域をどうするのかもしっかり議論していきたい。来年度以降にそれぞれの学校を回ってお話をさせていただく。
松場委員	各地を回っていただくということでほっとしたところがある。 職種、地域、業種を超えて会議をすること、皆さんに出会えたことはとてもよかったので、教育委員会として、今後地域、業種を超えて人を集めてほしい。県外の人とズームでつなぐなどオンラインを活用しながら、定期的に話し合う場があるとよいと思う。 実施計画のダイジェスト版をふるさと納税の返礼品と一緒に送ることも考えてもらいたい。
岸本委員長	１０ページの外国人児童生徒への支援のところをふくらませるということ、用語解説に義務教育学校、コミュニティスクールを加えることの２点については、事務局と委員長、副委員長で修正内容を確認するということでよいか。
	（委員了承）
岸本委員長	実施計画案については、今日のところを踏まえてお認めいただくということでよいか。
	（委員了承）
岸本委員長	せっかく来ていただいているので、一言ずついただきたい。皆さんの思い等もしっかり伝えていただきたい。
平田委員	いろいろな考え方やご意見を聞かせていただくことができ感謝している。 大田市が魅力のある場所ということで、少しでも人口増の方向にいってくれればよいと思う。 この計画が皆さんとの話し合いを経ながら実行されていくことを願っている。
石賀委員	三瓶ブロックの代表という認識で参加したが、違っていた。一委員ということであったが、周りから代表と見られてプレッシャーがかかった時期があった。今後、名簿の書き方など配慮してもらいたい。 ぜひ、大田市の子どもたちのために、実行していただきたい。自分も機会があれば協力させていただきたいと思う。
山﨑まり子委員	専門用語を使っていたところを住民にわかりやすい言葉で表現してもらい感謝している。 基本的なことは変わらないかもしれないが、時代とともに変わっていかなければならないことがたくさんあって、大田市のよさのところは静かに染まっていき、静かに子どもたちに伝わっていく教育をしていけたらよいと思う。

発言者	内　　容
山﨑まり子委員	不登校児を心配している。友がいるということはすごく大事なことなので、無理やり引っ張り出すのではなく、人がいるという温かさを伝える教育をしていただきたい。 久手では、コミュニティスクールをしている。コミュニティスクールはとてもよい。
石田委員	いろいろな子どもがいる中で、自分が強く生きていくためにどうしたらよいかを考えるには少人数校ではできないことではないかと思う。できるだけ大きい学校がよいのではないかと個人的には思っている。
松場委員	教育の話を聞かせてもらってとてもよかった。一番よかったのは、ふるさと教育について知れたことである。人間を育てる教育がここにあるということは、保護者としても安心である。都会では孤独な子育てをしている家庭が多く、県外にもふるさと教育が届くように活動していければよいと思った。
渡利委員	委員のあり方について、代表ではないと言われながら代表的な意識が抜けなかったところがあった。 今後、少なくとも学校がある地域からは委員を選出してもらいたい。 皆さんといろいろな教育に関しての話をし、意見を聞かせてもらったので、とても勉強になり、未来に希望が持てている。
高橋委員	代表なのか個人なのか、どれだけの権限があるのか探りながらの何か月だった。 皆さんの考えや思いをくみ取ってもらっての最終的な修正案となり、よかった。 これからがスタートだと思うので、一住民として子どもたちの教育を見守っていければと思う。
吉田委員	学びの多い、気づきの多い会であったと思う。 社協では、児童生徒を対象にした福祉と暮らしを考える学びの場づくりということを検討している。このことを進めていくにあたっても皆さんのご意見をいただきながら進めていきたい。 コミュニティスクールに保護者がどうかかわればよいのかわかりにくいというところがある。特殊な用語が出てくると保護者は混乱してしまう。今後学校などで説明されるときには、わかりやすい図式などの資料を示してもらいたい。
中田委員	作り上げられたものが実際に実施されて運用されていくことを願っている。
大國委員	平成１６年から始まった山村留学だが、ここ５、６年地元の高校にいく子が増えている。何がいいのかと聞くと、人だと言う。そのことが子どもたちの土台にあって、こちらの学校でやっていこうというふうになるのだと思う。 この会で、みんなが優しい気持ちで子どもたちを育てていこうということがわかった。地元の人たちと学校とＰＴＡなどみんなで子どもたちを応援して育てていきたいと思った。
山﨑哲也委員	時代の流れが早いので、運用された以降にその都度臨機応変にいろいろな意見など取り込まれて、よりよい実施計画になっていくのだろうと思う。 教育委員会では、今後しっかり引継ぎしてもらい、より現場で有効に使われるようにしてもらいたい。
景山委員	保護者の率直な気持ち、意見を言える機会であったと思う。 保護者だけが集まって教育について議論する機会があればよいと感じている。
谷口委員	この計画ができるということで、市民の皆さんにわかりやすく伝わっていけばよいと思っている。
山根委員	いろいろ勉強させてもらった。ぜひ自分たちの小学校のほうで進めて、いい学校になってくれればと思っている。

発言者	内　　容
吉村委員	普段やっていることにもっと自信をもってやっていけばいいんだなということを再認識した。大田市の皆さんにもっとふるさと教育が浸透していけば、保育園の理解も深まると思った。 いろいろな立場の人から意見を聞かせていただき、大変勉強になった。
笠井委員	自立と共生やふるさと教育の一番大事なところになっているのが、小さい人たちを預かっている私たちの役目なのかと改めて感じたので、しっかり育んでいきたい。 保育園、認定こども園、幼稚園から高校までずっと見据えていって、連携して取り組んでいくこと、保護者の方、地域の方と一緒にやっていくことが大切だと思うのでしっかりがんばっていきたい。
藤井委員	中学校、特に大規模校は、小学校と比べると地域との関係が薄れてくるという課題がある。生徒だけでなく、職員も地域に出かけていって、ひと・もの・ことの出入りができるようになればいいと思っている。 第三中学校について、生徒の活動や職員の配置に格別の配慮をお願いしたい。
岩谷委員	コミュニティスクールはいろいろな代表の方が集まってそれぞれの思いをしっかり繋いでいく場になる。そういう場が実現できるよう各校長ががんばっていかなければならない。 学校で行っていることを一生懸命地域、保護者に発信しているつもりだったが、自分が使っている言葉がいかにわかりにくく、いかに皆さんに理解してもらえていない言葉だったかということを改めて感じた。少なくとも保護者に関係ないと思われるような説明にならないように、今後各学校を運営する校長がしっかり考えていかなければならない。学校が何をしているのか、何をしたいのかということに関心を持ってもらえるよう発信していきたい。
渡邊委員	コミュニティにある学校なので、地域住民が学校経営にどんどん参画しなさいということで、ぜひこれから地域の皆さんに学校の経営に関わっていただきたい。 子どもたちを後々の大田の人材にしていかないといけないと思っている。大田で学んで県外でさらに勉強して社会に貢献できる何かをつかんで、ふるさとにもどるような子どもを作っていかないと思っている。 大田市の特色ある取り組みとして教育が一番だということで、予算も確保してほしい。
三島 副委員長	いろいろな意見、新しい意見が吸い上げられやすいシステムづくりを工夫する必要がある。 大田市の教育のブランド化ということはよいと思う。学校のあり方についてＤＶＤ化したりしながら、市民はもちろん、市外、県外の方へもアピールしていくことが定住にもつながると思う。 この後どうなるのだろうということに皆さん関心を持っておられるので、途中の様子がわかる場があればよいと思う。
岸本委員長	ふるさと教育がかなり出てきた。隠岐の島の生まれで、テレビに隠岐の風景が出てくる時間になると自然と切り替えて安心する。ふるさとはいいものだとつくづくこの会議に参加して思う。 教育を受ける子どもたちが主体で、教育環境をどうしていくかが大人の責任となる。教育は地域づくりの基本であり、地域力で育った子供たちがこの先大田市をしっかり支え発展させてくれることを願わざるを得ない。このような環境で育った子どもたちが将来大田市を担うという気概を持って大人の方たちは邁進していただきたい。

発言者	内　　容
岸本委員長	計画をまとめただけではいけないので、この先も関わりを持ちながら、この計画が子どもたちのためによりよいものに実行できるよう協力していかなければならない。
船木教育長	実施計画案がまとまり、２か所付け加えるところはあるが、中味としてはこの方向でいきたい。 あくまでもスタートラインであり、これを今からスタートさせるが、なかなかゴールは見えないと思っている。教育に関しては日々環境が変わってきており、手法的なものはいろいろ変わっていこうかと思うが、目標とするものは変わらないと思っている。これをどう組み立てていくかは、教育委員会だけでなく、保護者の方々、地域の皆様方と協議しながら目標に向かって進めていきたい。ハードルが高くなることもあると思うが、皆様のご協力により、大田市の子どものために頑張っていきたいと思っている。 今後とも大田市の教育について発信しながら行っていきたい。
事務局から、今後、パブリックコメント（意見募集）を行い、今年度末には実施計画を策定し、来年度に地域で説明することを伝えた。	

以上をもって、第８回大田市学校のあり方に関する実施計画検討委員会を終了した。